

新収蔵資料紹介

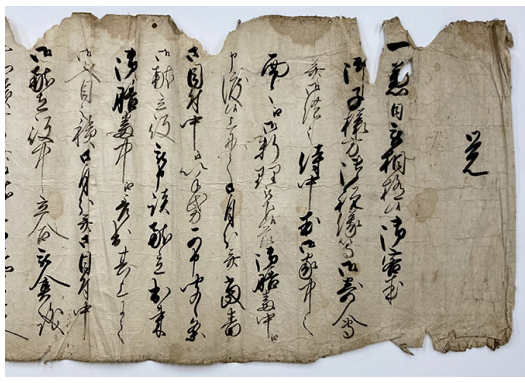
2025. 1
▼
2025.12

久留米藩の江戸藩邸に勤務 藩士福永家の多様な資料群

「福永家資料」

旧久留米藩士福永家に伝来したもので、江戸時代の武家文書を中心とする総数49点の資料群です。

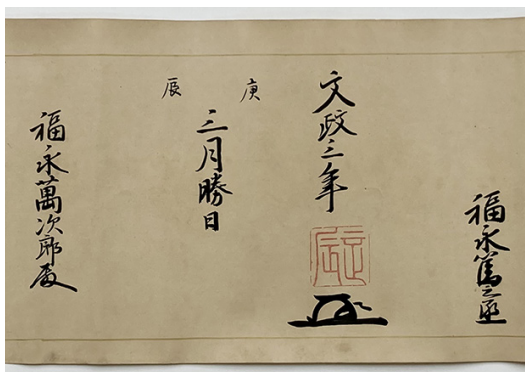
福永家は、久留米藩初代藩主有馬豊氏に「御料理方」として召し出され、代々藩士として勤めることとなります。やがて3つの家に分かれますが、いずれも江戸藩邸に勤務し、



御料理方や御台所方の勤方 10か条を定めた覚。第1条は、藩主が振る舞う料理について、献立・予算を決定するプロセスを記す

藩主やその家族の側近くに仕えました。幕末の参勤交代制度の廃止に伴い、久留米藩領の江戸屋敷に移住したと伝わります。

本資料群は、経緯は不明ですが、3家それぞれに関わる資料が伝来し、相互の縁組等によつて集約されたものと推測されます。具体的には、3家の系譜や由緒書、「御料理方」の勤めに関する捉書、久留米城下町の切絵図、武術の免許状など、多様な内容で構成されています。



文政3年（1820）に福永篤之丞から福永萬次郎宛てに出された槍術の免許。篤之丞は、藩主子息の槍術稽古の相手も務めた

形見分けされた旧蔵資料 寄贈により再び集まる

「西原柳雨関連資料」

庄島町出身で、日本三大古川柳研究家の一人である西原柳雨（1865〜1930）に関する資料群です。柳雨は古川柳研究の著作を多く残し、晩年には福岡日日新聞（西日本新聞の前身）において柳壇の選者となり、九州での川柳振興に寄与しました。

柳雨の没後、その旧蔵資料は親族に形見分けされました。そのうち、柳雨の曾孫の井手香織氏に伝来した原稿や校正綴りなど計54点は、令和4年度に市が寄贈を受けました。今回の資料群は、同じく柳雨の曾孫の

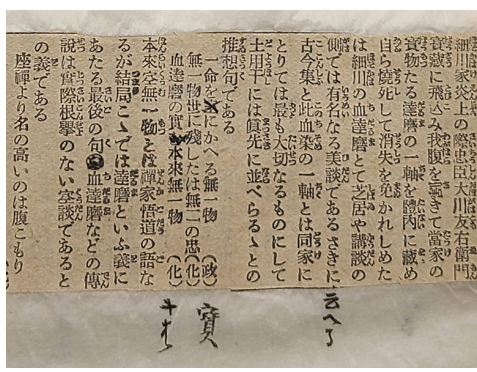


(右)「筑後新聞所載 川柳九州志」
(左)「大正十三年度 新聞投稿切抜 第三」
左の冊子には記事執筆時の柳雨の年齢が書かれる

西原昭彦氏から寄贈されたもので、内容は柳雨が執筆した新聞連載記事の切り抜き2冊、昭和戦後期に増訂新版された柳雨の著作5冊、没後にまとめられた柳雨の伝記1冊です。

切り抜きは2冊とも柳雨が作成しており、うち1冊は筑後新聞に大正10年（1921）6月から同年12月まで掲載された「川柳九州志」を、もう1冊は都新聞などに掲載された寄稿文をまとめたものです。柳雨は記事が世に出た後も、自身の文章や執筆歴を記録し、また研究内容の精度を高めました。

新たに寄贈された資料は、柳雨の業績と活動をより幅広く後世に伝えていきます。



「川柳九州志」の切り抜きをまとめた冊子
記事中には記号や線、記事のそばには柳柳が書き込まれる